

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年4月23日

代表者 和田 安代

研究課題名	炎症性腸疾患患者の栄養素摂取状況調査および中鎖脂肪酸摂取効果の検討 および教育効果の検討
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	松本 晃裕
1. 今年度の研究概要	
<p>炎症性腸疾患は、潰瘍性大腸炎とクローン病に代表される消化管に炎症が起きる難治性疾患である。原因不明で治療方法も確立されていない上、若年発症で、近年患者数が増加している。治療法は各種薬物治療、免疫調整剤を用いた治療、手術等多岐にわたるが、栄養療法に関しては主に本邦で行われており、栄養状態の改善や腸管の安静と炎症も抑える役割を担う重要な治療法である。栄養療法は、成分栄養剤や消化態栄養剤などが用いられるが、患者が若年であることで多様な食習慣を好む傾向にあること、さらに栄養剤の服用方法や味などが原因で必ずしもコンプライアンスが良いとはいえない。この疾患は再燃と寛解を繰り返し、完治することはない。よって患者にとっては一生涯付き合っていく疾患であり、食生活との関連は治療のみならず、患者の Quality of Life を向上させる重要な因子となる。そこで、炎症性腸疾患患者を対象に、食習慣や食嗜好の特徴に合致しかつ治療効果の高い料理の開発に寄与することを目的とし、治療食の開発を行う。また、炎症性腸疾患の病態解明に関する基礎実験も行う。</p>	
2. 研究の成果	
<p>平成28年度の研究に関しては、予算の関係上、研究計画を大幅に変更せざるを得なかったが、その中で最大限結果を出すように善処した。</p> <p>まず、炎症性腸疾患に関する研究として、外部の大学病院と共同研究を行い、炎症性腸疾患の新規治療と病態解明に関する研究を行い、現在も継続中であるため、今後さらなる研究成果が期待できる。</p> <p>また、炎症性腸疾患患者を対象とした治療食の開発を多く行った。特に中鎖脂肪酸を使用した治療食の開発や、献立開発などを多く行い、今後も継続していく予定であり、患者に役立つ媒体作成を視野に入れて進めている。</p>	

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

【論文】 Meshitsuka S, Shingaki S, Hotta M, Goto M, Kobayashi M, Ukawa Y, Sagesaka YM, Wada Y, Nojima M, Suzuki K. Phase 2 trial of daily, oral epigallocatechin gallate in patients with light-chain amyloidosis. *Int J Hematol*. 2017;105(3):295-308

【学会発表】 井澤綾子、野口結真、西村一弘、藤原恵子、立川恵美子、佐々木香織、和田安代「小児1型糖尿病患者における食生活の現状と長期的継続介入に関する検討」第20回日本病態栄養学会年次学術集会、2017年1月

【学会発表】 後藤美紅、飯塚聡介、鈴木憲史、新垣清登、堀田昌利、小林誠、卯月裕一、提坂裕子、和田安代「ALアミロイドーシス患者における epigallocatechin gallate の有効性と治療効果の検討」第20回日本病態栄養学会年次学術集会、2017年1月

【学会における卒業研究セッション】 高瀬真紀、中村麗奈「予防医療および予防介護を目的とした料理教室の実態調査と実施効果に関する検討」第20回日本病態栄養学会年次学術集会、2017年

【学会における卒業研究セッション】 古田桃子「子宮体癌患者に対する術後DP化学療法への影響を与える因子に関する検討」第20回日本病態栄養学会年次学術集会、2017年1月

【学会主催のコンテスト（学生部門）】 中原みなみ他. 糖尿病患者のためのレシピコンテスト、テーマ「糖尿病のための500kcalオリジナル弁当」学生“お弁当”部門 優秀賞受賞 第20回日本病態栄養学会年次学術集会、2017年1月

【論文】 Brian Benjamin, Yasuyo Wada, Scott M. Grundy, Magdalene Szuszkiewicz-Garcia, Gloria Lena Vega. Fatty acid oxidation in normotriglyceridemic men. *J Clin Lipidol*. 2016;10(2):283-288

【論文】 岩淵里佳、和田安代、西村一弘、藤原恵子、佐々木香織他. 定期的な管理栄養士との関わりが1型糖尿病患者の食習慣に与える影響：日本病態栄養学会誌. 2016;19(1):143-150

【学会発表】 飯塚聡介、新垣清登、鈴木憲史、堀田昌利、後藤美紅、和田安代、小林誠、卯月裕一、提坂裕子. Phase 2 trial of daily, oral epigallocatechin gallate in patients with light chain amyloidosis : 第4回日本アミロイドーシス研究会学術集会 2016年8月

【寄稿】 機関紙とうきょう p4 公益社団法人東京都栄養士会「第3回栄養士大会に参加して」平成28年9月

【シンポジスト】 栄養学若手研究者の集い 第50回夏期研究会（サマーセミナー）若手シンポジウム2「健康寿命について考える」シンポジスト 炎症性腸疾患における長期的視野に立った治療と栄養学的アプローチ 2016年8月

【寄稿】 ヘルスケア・レストラン 2016年9月号 平成28年8月20日発行 p33

栄養士応援企画「準備万端？教えて！学会“3K”お役立ちグッズ!!!」

【著書】 臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック（東京医学社）「炎症性腸疾患」の栄養療法・栄養教育（p29-33）、「炎症性腸疾患」の演習のポイント（p34）

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	炎症性腸疾患患者の栄養素摂取状況調査および中鎖脂肪酸摂取効果の検討および教育効果の検討
研究代表者	和田 安代
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	松本 晃裕

## 1.研究成果取組状況

## (1)国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	<p>【学会発表】井澤綾子、野口結真、西村一弘、藤原恵子、立川恵美子、佐々木香織、和田安代「小児 1 型糖尿病患者における食生活の現状と長期的継続介入に関する検討」第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会、2017 年 1 月</p> <p>【学会発表】後藤美紅、飯塚聡介、鈴木憲史、新垣清登、堀田昌利、小林誠、卯月裕一、提坂裕子、和田安代「AL アミロイドーシス患者における epigallocatechin gallate の有効性と治療効果の検討」第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会、2017 年 1 月</p> <p>【学会における卒業研究セッション】高瀬真紀、中村麗奈「予防医療および予防介護を目的とした料理教室の実態調査と実施効果に関する検討」第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会、2017 年</p> <p>【学会における卒業研究セッション】古田桃子「子宮体癌患者に対する術後 DP 化学療法の完遂に影響を与える因子に関する検討」第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会、2017 年 1 月</p> <p>【学会主催のコンテスト（学生部門）】糖尿病患者のためのレシピコンテスト、テーマ「糖尿病のための 500kcal オリジナル弁当」学生“お弁当”部門 優秀賞受賞 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会、2017 年 1 月</p> <p>【学会発表】飯塚聡介、新垣清登、鈴木憲史、堀田昌利、後藤美紅、和田安代、小林誠、卯月裕一、提坂裕子. Phase 2 trial of daily, oral epigallocatechin gallate in patients with light chain amyloidosis : 第 4 回日本アミロイドーシス研究会学術集会 2016 年 8 月</p>	

## (2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	<p>【論文】 Meshitsuka S, Shingaki S, Hotta M, Goto M, Kobayashi M, Ukawa Y, Sagesaka YM, Wada Y, Nojima M, Suzuki K. Phase 2 trial of daily, oral epigallocatechin gallate in patients with light-chain amyloidosis. Int J Hematol. 2017;105(3):295-308</p> <p>【論文】 Brian Benjamin, Yasuyo Wada, Scott M. Grundy, Magdalene Szuszkiewicz-Garcia, Gloria Lena Vega. Fatty acid oxidation in normotriglyceridemic men. J Clin Lipidol. 2016;10(2):283-288</p> <p>【論文】 岩淵里佳、和田安代、西村一弘、藤原恵子、佐々木香織他. 定期的な管理栄養士との関わりが1型糖尿病患者の食習慣に与える影響: 日本病態栄養学会誌. 2016;19(1):143-150</p>	
投稿中 投稿予定		

## (3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	<p>【寄稿】 機関紙とうきょう p4 公益社団法人東京都栄養士会「第3回栄養士大会に参加して」平成28年9月</p> <p>【寄稿】 ヘルスケア・レストラン 2016年9月号 平成28年8月20日発行 P33</p> <p>栄養士応援企画「準備万端? 教えて! 学会“3K”お役立ちグッズ!!!」</p> <p>【著書】 臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック(東京医学社)「炎症性腸疾患」の栄養療法・栄養教育(p29-33)、「炎症性腸疾患」の演習のポイント(p34)</p>
出版予定	

## (4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	<p>【シンポジスト】 栄養学若手研究者の集い 第50回夏期研究会(サマーセミナー) 若手シンポジウム2「健康寿命について考える」シンポジスト 炎症性腸疾患における長期的視野に立った治療と栄養学的アプローチ 2016年8月</p>
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名